



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)3月15日号 No.1952

目次

■ 2024年 教書演説で大統領選挙の公約を提示	1
■ 統計速報	12
2024年1月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／12	
2024年1月の日ロ貿易／13	
■ トピックス	16
豪加、ロシアに追加制裁／16	
独、ロスネフチ資産の外部管理を延長へ／16	
モルドバ、仏と防衛協力協定を締結／16	
山形大、ウズベクでビジネス人材育成支援へ／16	
日ウズベク外相会談／16	
日ロさけ・ます漁業交渉が妥結／17	
米、3億ドルの対ウクライナ武器支援／17	

2024年 教書演説で大統領選挙の公約を提示

(一社)ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所 研究員
中馬 瑞貴

はじめに

2024年2月29日、プーチン大統領は、自身としては19回目となる教書演説を行った。モスクワ市内の「ガスチヌイ・ドゥヴォール」で行われた演説は、教書演説としては過去最長となる2時間6分に及んだ。その内容は、冒頭こそウクライナでの「特別軍事作戦」や関連する西側批判に始まったものの、大半は新たな社会支援策(保健・医療、教育など)、技術発展や企業支援、地域政策など国民にとってより身近なテーマについて言及した。

今回の教書演説は約半月後(3月17日)に控えた大統領選挙直前の演説ということで、事実上、有権者に対して選挙公約をアピールする機会となった。日本のメディアでは、ロシア軍の戦果や軍事侵攻の優勢といった、「特別軍事作戦」に関する発言が強調されているが、本号では、本誌の読者に関心が高いであろうロシア経済や社会に関わる部分を中心に、演説の概要をご紹介します。

なお、演説の全文はロシア大統領ホームページに公開されているので、関心の向きにはそちらをご覧ください(<http://www.kremlin.ru/events/president/transcripts/73585>)。